

福岡空港 PI 第 1 段階に関して

石田委員長 殿

本日は大学公務につき委員会に出席できないこと、お詫び申し上げます。小生の PI 実施報告書（素案）に関する感想・意見を若干ではありますが具申させていただきたく存じます。

(I) PI 活動が実施計画の基本方針に沿ったものであったか

これは報告書にもありますように、適切であったといえます。特に意見の収集とその開示は添付資料にありますように膨大なものであり、これらが全て公開されているということは第 3 者からも内容を評価することが可能であり、方法論的にも中立・公正を保つことができるものと判断しました。ただし、後にも述べますが、福岡空港の現状を余りご存じでないという方が多い、というのは未だ問題ではあります。現状の認知度に満足することなく、さらに広報活動を活発にすることが肝要であり、それが第 2 ステップにもつながる話だと思います。

(II) 当初の目的が達成されたか

結果を見ればおおむね達成されたと結論づけることができます。特に懸案事項でありました「十分な周知の実施」につきましては、メディアを通じた広報から聞き知った方が多い中、口コミの率が 1 割以上ある点、PI が実施されていることはかなり伝播しているのではないかと考えられます。また、福岡空港の現状に対する認識が意外にも低いという結果（問 3）でしたが、そういった中で提供された情報が「興味深かった（問 4、全体の 8 割強）」、「知りたい情報がおおむね得られた（問 5、6、両方とも過半数）」であったことは第 1 段階の目標である「情報の周知と理解」という意味では成功であったといえます。ただし、アンケート回答者の内実が「年間 3 - 7 往復程度」、「30 回未満」というかなりの頻度で利用されている方が全体の 3 割以上を占めていることに注意が必要です。これはアンケート配布先が空港以外の場所も含めていることを考えても、日常的に空港を使われる方が多く答えられているということ、これが福岡特有の現象なのか（福岡では航空輸送は特別な交通モードではない、日常的に利用できるもの、という意味）どうか、一考に値すると思います。

以上であります。

平成 17 年 11 月 18 日

神戸大学工学部 竹林幹雄